

平成30年度練馬区がん検診無料チケット事業について

1 事業目的

子宮がん、乳がんの罹患者は近年増加傾向で、比較的若い年齢で罹患率のピークを迎える。このため、子宮がん検診は20歳、乳がん検診は40歳からの受診を習慣づけ、がんの早期発見・早期治療に繋げる。

2 事業内容

検診初年度となる子宮がん20歳、乳がん検診40歳の女性区民へ、自己負担金が無料となるチケットおよび啓発用リーフレットを個別送付した。

○無料チケット

対象者の検診費用を無料とすることで受診のきっかけを作り、検診に対する誤解や不安を払拭する。

○啓発用リーフレット

がん検診の制度を周知することに加え、がんに対する正しい知識の普及、早期発見の重要性を伝える。また、適正な受診間隔で受診することの必要性について周知し、継続的な受診を促す。

3 目標

種別	目標受診率
子宮がん検診(20歳)	11.0%
乳がん検診(40歳)	26.0%

※ 目標受診率：国実施のクーポン事業における全国平均受診率。

4 実施状況

<対象者>

子宮がん検診(20歳)	平成10年4月1日～平成11年3月31日生まれ
乳がん検診(40歳)	昭和53年4月1日～昭和54年3月31日生まれ

<対象者数、受診件数および受診率>

◆子宮がん

種別	対象者数	受診件数	受診率
27年度(※)	3,706人	136件	3.7%
28年度	3,684人	159件	4.3%
29年度	3,445人	174件	5.1%
30年度	3,584人	206件	5.7%

◆乳がん

種別	対象者数	受診件数	受診率
27年度(※)	5,848人	807件	13.8%
28年度	5,556人	1,283件	23.1%
29年度	5,455人	1,290件	23.6%
30年度	5,285人	1,190件	22.5%

※27年度については、未実施年度となり、事業実施後の比較のための参考の数値となります。

< 発送日 >

平成30年4月25日(水)

5 受診率向上効果について

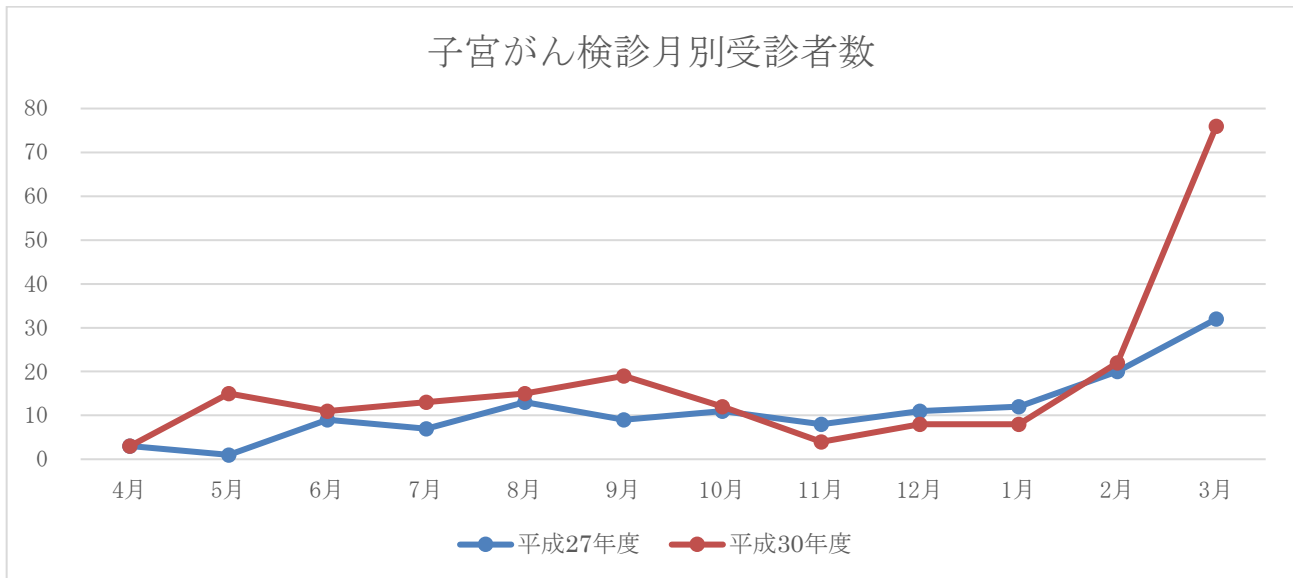
受診率向上効果を検証するため、無料チケット事業を行っていない平成27年度と比較した。

(1) 平成27年度との比較

【子宮がん検診】

3月以外は大きな差は見られなかったが、受診数、受診率共に27年度を上回った。

※30年度 206人(5.7%)、27年度 136人(3.7%)

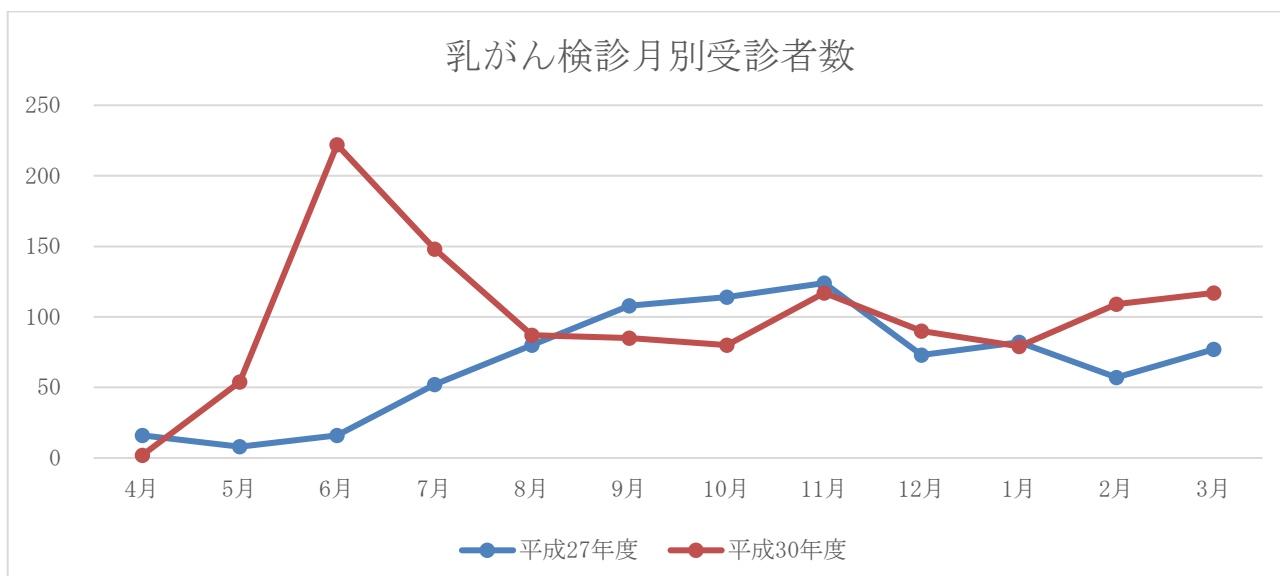


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度	3	1	9	7	13	9	11	8	11	12	20	32	136
平成30年度	3	15	11	13	15	19	12	4	8	8	22	76	206

【乳がん検診】

乳がん検診の受診月は、申込み月の2か月後となるため、6月以降の受診状況を比較する。
6月から9月の受診者数は27年度を大きく上回った。9、10月は27年度が上回るものの、2、3月は受診者が増加し、合計では27年度を上回っている。

※30年度 1,190人(22.5%)、27年度 807人(13.8%)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度	16	8	16	52	80	108	114	124	73	82	57	77	807
平成30年度	2	54	222	148	87	85	80	117	90	79	109	117	1,190

6 考察

子宮がん検診では、受診率は少しずつ上昇しているが、全体の15.6%と比較して5.7%と大きく下回る状況にある。

乳がん検診においても、受診率向上効果が見られるが、前年度よりも利用率が低下している。

ただし、子宮がん検診、乳がん検診ともに、偶数年齢で受診する方が奇数年齢で受診する方よりも受診率が高い傾向が見受けられる。このことから、受診対象初年度対象者への無料チケット事業は効果的な受診勧奨策となっている。

今後は、成人式における子宮がん検診の受診勧奨など、引き続き無料チケット対象者への受診勧奨を行うとともに、新たな受診勧奨策を検討する必要がある。